ルネサンスと宗教改革

ヨーロッパの文化と宗教の変化は、アジアや日本とどのようにつながったか

ルネサンス（14世紀ごろ〜）

- イタリアの都市で、古代ギリシャ・ローマの文化を見直す動きが始まる
- 人間らしさを大切にする絵画・彫刻・文学
- 天文学などの科学が発達する
- 羅針盤・火薬・活版印刷が改良される

印刷で考えが広まる

宗教改革（1517年〜）

- ドイツのルターが、教会が免罪符を売ることを批判する
- 聖書を信仰のよりどころにする考えが広まる
- スイスのカルバンも改革を進める
- 新しい教えの人々はプロテスタントと呼ばれる

カトリック教会の立て直しと海外への布教

カトリック側の改革
教会の立て直しを進める

→

イエズス会（1534年）
海外での布教に力を入れる

→

アジアへ
新航路を使い、インドや東南アジアへ渡る

→

日本へ（1549年）
ザビエルが鹿児島に来てキリスト教を伝える

ヨーロッパの国々の新航路の開拓（大航海時代）と結び付いて、アジアとの関わりが深まる。

絵画・彫刻などの作品や人物の姿は描いていない。宗教の教えの優劣は扱わない。